

1-2-13-3 千種園跡

千種園^{ちくさぞの}は江名子にあった大秀翁居宅の名で、その跡はいま荏名神社神域の南方に接続する水田と化している。大伴家持の「八千種（クサ）に草木を植ゑて時ごとに咲かむ花をし見つつしぬばな」（万葉集 4314）の歌により命名、庭にくさぐさの木草を植え、池には鯉も泳いでいたという。

桐材で作った千種園扁額が残っている。武部大輔菅原長親書、大きさ 29.5×99.0 cm。

千種園の東方真向かいに霊峰乗鞍岳が見えて、その上に出る月の眺めが格別なところから、大秀翁は居宅の建物を賞月榭^{しょうげつしゃ}と名づけた。月の出を眺めるに最も適した、東面する2階東側4畳台目の京間に掛かっていたと思われる賞月扁額が残っている。治部卿藤原貞直書、大きさ 35.8×63.0 cm。

賞月榭の建物は明治初年高山町市街地に移築された。

リーフレットより